
或る少年の陰鬱な独白

白沢 凧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

或る少年の陰鬱な独白

【Nコード】

N5073Z

【作者名】

白沢 凪

【あらすじ】

果てしなく不毛な内容が綴られたノート。
それは少年の人生の『全て』だった。

まったくもって無駄な人生を送って参りました。

この世に生を受けた意味も分からず、どうして今生きているのかも分からず、過去の過ちの意味も分からず、未来も分からない。

全てにおいて訳が分からず、又、分かつた愚かな私は、とりあえず人並みの生き方をしてみました。

結果は恐らく成功。しかし、得られたものはそれほど多くはありませんでした。

得ようと欲しなかったのは自分でありますから、何も得られなかったのは当然の結果と言われても仕方の無いことであります。

私には欲がありません。

一日不自由なく暮らせるだけのものがあればそれで満足できますし、お金を貰う時も極力大金は受け取らないようにしました。

私の感覚で大金と言うに値する金額ともなれば千円以上、それ以上受け取る時は何とも言えない気持ちになったものです。

そんな私を見て親はよく「貰えるものは貰っておきなさい」と言いましたが、私は貰わなくても構わないのならそれに越したことは無いと思いました。

そもそもお金の意味が分からない私にとって、硬貨や紙幣は只の金属と紙切れにしか見えませんでした。

つまりは、それだけの価値しか見出せない無駄なものという結論に至ったのです。

さて、身体を動かすことがあまり好きではない私は、家でよく本を読んだり、インターネットで時間を潰しました。

当然親は健康によくないから外で遊びなさいと言いますが、近所にそついった場所が無い以上家で遊ぶしかありません。

友人などという存在の居なかった私には、たくさんの時間がありました。そのほとんどをインターネットに費やしたのは、それ以外にすることが無かったからでもあります。

そこから引きこもりになるのに、そう時間は掛かりませんでした。ほとんどの時間を電腦の世界で過ごし、それ以外は寝て起きて、決まった時間に運ばれてくる食事を誰も居なくなったときに自分の部屋に持って行き、トイレともなれば、廊下で家族の誰かに遭遇するのではないかという恐怖に襲われたものです。

そんな生活を送っているうちに、自分という存在について考えるようになってきました。

やりたいことも無く、なりたい職業も無く、夢もなく、現状に不満も無く、ただ惰眠を貪り、生きているのか死んでいるのかよく分からない存在。

私は、このようなことを文章として起こすことすら憚れるような世の中でないことに、今一度感謝するべきなのかも知れません。

こうすることによって、己の中に渦巻いている正体不明の感情を明らかに出来るということは、ある意味自分を見つめ直すという点においてかなり有用な手段だと思うからです。

しかし、私のようなくだらない社会不適合者がこのようなことをしたところで、何の意味も無いと断言できます。

何故なら、私には死という選択肢しか存在しない存在だからです。自分で書いておいて反吐がでそうな文章ですが、それが自分のありのままの姿である以上仕方ありません。

かなり中途半端な文章ではありますが、これで筆を置かせていただきます。

あくまで私の不器用な畜生以下の生き様をありのまま書き記したまま、このか弱い命の灯火を吹き消そうと思います。

これからこの遺書代わりの手紙を机の奥深くに入れ、天井に吊って

ある紐の輪に首を通し、足場のイスを蹴るだけで私の人生は終わります。

現世への最後の遺言で、育ててくれた親への感謝の気持ちをよく述べますが、私は敢えて書きません。

そして、親に全ての責任を押し付けて死ぬような無様なことを書くつもりもありません。

それなら一体どうするのか。

私はこう書いてこの駄文を終わらせることにします。

私は私のために死のうと思います。

どこまでも薄っぺらい利他主義に徹してきましたが、この人生の終わりに一度だけ利己主義者になってみます。

ほとんど執着しなかったお金、五円玉を六枚。

三途の川の渡し賃に見立てて、それを握りながら死にましよう。

恐らく賽の河原で立ち往生することになると思いますが、それで構いません。

いつまでも終わることの無い報われぬ行いこそが、私に一番お似合いなのですから。

なので最後に現れる地藏菩薩の救いの手は拒むつもりです。それこそが、私が貫く最初で最後のエゴなのですから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5073z/>

或る少年の陰鬱な独白

2011年12月17日03時58分発行